



岐大通 2013

2013 J.League Division2
第1節 ロアッソ熊本 戦
5/12(日) 19:00~
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

FC岐阜大好き通信(岐大通)
5/12号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当:
ささたく & 吉田鑄造

today's guest: ロアッソ熊本 2012 J2 15勝 10分 1敗 勝ち点 55 第14位

九州の社会人サッカーの雄として君臨していたNTT九州サッカー部(後にアルエット熊本に組織変更)は、JFL昇格2年で九州リーグに降格。そのアルエットを引き継ぐカタチで2005年に『ロソ熊本』が発足。同年の九州リーグを制し、地域決勝は3位で終えた(優勝はFC琉球、2位はジェフ千葉アマチュア(後のジェフ・リザーブズ))が、同年のJFLで愛媛FCがJFLで優勝しJ2加盟を決めたため昇格枠が3になりJFLへ。翌年のJFLは5位で終えJ2加盟ならず(これにより、この年の地域決勝で2位となったFC岐阜はJFLへの自動昇格を果たせず、ホンダロックとの入替戦を戦うことになった)。JFL2年目の2007年は2位となり、3位のFC岐阜とともにJ2加盟。最高位は2010年のJ2・7位。(吉田鑄造)

2013J2

順位表(暫定) 第13節
勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から視て)

1	神戸	30p	+12	23	11	A
2	長崎	25p	+5	15	10	
3	G大阪	24p	+10	21	11	A
4	栃木	23p	+5	14	9	A
5	岡山	22p	+5	18	13	
6	千葉	21p	+10	20	10	H
7	京都	19p	+7	21	14	H
8	山形	19p	+3	21	18	H
9	福岡	19p	+1	11	10	
*10	東京V	18p	+6	14	8	A
*11	松本	18p	+1	13	12	A
12	水戸	17p	+1	15	14	
13	愛媛	17p	+1	13	12	A
14	熊本	16p	0	16	16	
15	札幌	16p	-3	13	16	
16	富山	16p	-5	12	17	H
17	徳島	16p	-6	15	21	H
18	横浜FC	13p	-4	13	17	H
19	鳥取	12p	-8	10	18	
20	群馬	10p	-10	8	18	H
21	北九州	8p	-13	10	23	
22	岐阜	6p	-18	5	23	---

東京Vと松本は1試合少ない

次回 HomeGame

第1節 ファジアーノ岡山戦
6/2(日) 19:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

GW3連戦、1分2敗と負け越してしまったFC岐阜。確かに、山形(現在8位)、G大阪(同3位)、千葉(同6位)と、上位チームとの3連戦だっただけに、厳しい日程の中で苦しい試合結果になるのはある程度想定できたことだったが、それでも勝ち点1しか獲れなかったのは残念な結果だ。しかし、J2リーグ戦はすぐに試合がやってくる。選手たちには十分に反省すべき点をかみ締めながら、それでも前を向いて次の試合に臨んで欲しい。

ここ3試合で採用している3バック制は、守備面では機能しているが、しかし、左右のWBがDFラインに吸収されてしまい“5バック”になってしまっている時間が多く、ボールを奪ってからの攻撃への切り替えや前への推進力が弱く、攻撃がシュートで終わっていない。山形戦5本(山形は9本)、G大阪戦1本(G大阪は10本)、千葉戦3本(千葉は12本)というシュート数の少なさが、それを物語っている。守備ばかりしては、そのうち失点してしまうのは必然だ。多少強引でも構わず、もっと貪欲にシュートを狙っていく姿勢がチーム全体に必要なのではないだろうか。

さて、今節の対戦相手はロアッソ熊本。これまで1勝しかできずに一時は順位が20位まで落ち込んだものの、このGW3連戦を3連勝して現在は14位と、調子を上げてきているチームだ。その好調の要因の一つに、おそらく新加入選手の存在があるだろう。FC岐阜と同様に、熊本は今年からのU-23の期限付き移籍制度を利用して、甲府から#28堀米勇輝、FC東京から#38橋本拳人を獲得。この2人が早速スタメンとしてチームを活性化させている。とすれば、我がFC岐阜のレンタル移籍組、#2樋口、#28水野、#29柴原も負けていられないところだ。彼らの活躍に期待したい。

また、ロアッソ熊本は、FC岐阜と2007年にはJFLで昇格を争った“J昇格同期”のチームだ。これまでの通算対戦成績は4勝5分6敗(JFL時代、天皇杯を含む)。当初はFC岐阜が勝ち越していたのだが、残念ながら2010年以降は勝てておらず、昨年は天皇杯での対戦を含めて3連敗。遂に通算で負け越してしまった。もうこれ以上、J昇格同期に負け続ける訳にはいかない。今節は、熊本の守備の要#5CB矢野大輔が累積警告で出場停止。この状況を活かして、いかに岐阜のFW陣が熊本ゴールを攻略できるかが勝負の鍵だ。

若きJリーガーたちの意地と、クラブの歴史の意地。その選手たちの背中を後押しするサポーターの意地。3つの意地をもった2つのチームが激しくぶつかり合う一戦。ゴールに、そして勝利に飢えたチームが勝つ。さあ、みんなでホーム初勝利を勝ち取る。(ささたく)



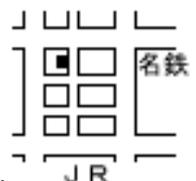
本庄工業株式会社
<http://www.honjp-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23
tel:058-273-8998

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)



【第13節】岐阜0-千葉

樋口、そこはダイレクトだ……。バクスタのほぼ真横から見ていて、美尾から送られたマイナスのクロスシュート体勢じゃなかった瞬間カラダがこぼり、悪い予感の中した時ついつい心の中でつぶやいてしまったよ（苦笑）。たぶん、同じ気持ちになった方は多いんじゃないかな？それでも、シュート3本。枠内シュートもない攻撃の中で、ようやく訪れた千載一遇のチャンス。「ゼツタイ決めなきゃ…」と、慎重になるのもやむをえないことかもしれない。とはいえ、総じて選手はよくがんばっていたと思う。もちろん、がんばったんだから良しとは思わない。ただ、気の抜けたというか集中力を欠いたのは前半の秀人のミスパスくらい。アレは失点しなかったのが不思議なくらいラッキーな場面だった。ホントに選手はよく戦っていた。それだけに辛いしキツイ。

それは選手も同じだろう。未だ3バックというシステムに戸惑っているように見える。前半早々から5バックになってしまうのはそれ故だろうか。そして、昨季のアウェイ千葉戦は、決して引いて戦っていたわけではなかったが今回はベタ引き。千葉も精彩を欠いていたが、こちらに攻め手がなかったため、焦ることなく攻め続けた。そんな中、なんとか耐えてはいたけれども、いずれは失点するかも？というプレッシャーを常に受けるだけでなく、それ以外のことでストレスやフラストレーションが溜まっていく試合になってしまった。あとで調べたら28才。若いな。もっともっと精進してください。

ボクは、昨季のチームを評して「カウンターが発動しないことにかけてはリーグ随一」などと自虐的に表現していたことがあったけど、まさか、その斜め上に行く状況を目の当たりにするとは思っていなかった。自陣の深い位置まで攻め込まれるので、クリアしても相手のコーナーキックばかりが増えていく。何とかボールを奪っても、同じく自陣の深い位置からでは1人2人しか攻め上がれず、相手のゴール前まで攻めきれない。これでは、PK阻止の場面では盛り上がる場面がないのもしかたない。

終盤での新井起用もそろそろ研究されてきた。やっぱり、バクちは何度も決まらない。どうせ使うのなら、なぜスタメンで始めから？とも思うけれども、3バックの型を作り込みたいからかな？それに、たとえ高さはなくともハイボールで相手DFを自由にさせなければ、セカンドボールを奪うことはできる。前線の選手にはいっそうの奮起を期待する。レンタル三銃士は随所に才能の片りんを見せてくれるけど、やはり実戦経験の不足からか球際の競り合いやスタミナ面に問題があるように見える。公式戦に慣れてくるのを待つしかない。ただ、ボクは待てるけど他クラブや勝ち点はそんなに？待つはくれないが。スカパー！の「マッチデイ・Jリーグ」などのダイジェストで見る他クラブがうらやましい。あんなにゴールが決まるなんて。しかし、これくらいでへこたれてはいられない。確かに問題は山積みだ。先日、耳にした「選手編成は監督の希望通り」というのは本当か？そんな疑問もないではない。ただ、Jリーグの歴史の中には、年間1勝とか3年連続最下位とか、さらに厳しい日々を耐えてきたサポーターがいる。ボクらが応援しなきゃ誰がする。ただ、勝利のみを信じてスタジアムへ。次節もただひたすらに声援を送ります！

(ぐん、)

GW過密日程の中での最後のゲーム。相手千葉は累積でケンペスを欠いてははっきりいって出来も良くなかった。それなのに勝ち点1も取れずに敗戦。

一番試合が沸いたのが時久がPKを止めた場面とは...これまで6本中5本を防ぐという驚異の阻止率の時久だが、裏を返せば2試合に1試合はPKを献上していることになり、それだけ守備に問題があるということの裏返しになる。

3バックがほぼ5バックの状態が続き、ボールを奪っても繋がらずシュートにまで持っていけないという有様。これでは得点もおぼつかない。

某番組で試合後の行徳さんの会見の様態を見たが、どうしたらいいかわからないというか、呆れているというか、投げやりになっているというかそんなような表情にも見えたのは自分だけだろうか。

正直この先の試合どこが相手でも苦しい状態が続くであろう。技術が未熟なのであれば、気持ちで補うしかない(限度はあるにせよ)スタジアムに足を運んでいるサポーター、ファン、お客さんに何がしか訴えかけるプレーを見せてほしいものである。(岐阜の誇り)

サッカーも他のスポーツと同様に“気持ち”が大事だというのがわかる試合だった。この日の千葉より、3日にアウェイで対戦したガンバの方が個人とチームの戦闘能力は明らかに上だったけど、FC岐阜はそのガンバ戦の方が「戦えて」いた。そんな試合を観ていたから、「ガンバ相手にあれだけ戦えたのだから、千葉戦ではやってくれるだろう」と期待していたのだけど、残念ながら現役日本代表が複数いるガンバ相手のブースト効果だったらしい。試合後のインタビューで服部が「5バックになるのが早過ぎる」と応えていたけど、じゃあどれくらいまで3バックだったのだろう。ぼくには開始すぐからアラタとソメがきっちりラインの張り付いた5バックにしが見えなかった。本来なら攻撃的に行かなきゃいけない水野+柴原も下がって見事なまでの5-4-1。相手からボールを奪うポイントが自陣ゴール近くなんで、攻め上がるには長い距離を走らなといけない。となるとトップの樋口がポストプレーで時間をかけてボールをキープして味方の攻め上がりを持たないといけないのだけど、樋口もそういうプレーが得意な選手ではない。必然的に、蹴り返しては奪われて押し込まれての繰り返しになる。これでは選手も消耗するよね。

さあ攻撃に入るぞ！となった時の動きでも「引き出しの枯渇ぶり」が顕著で。「動いてない選手にパスを出して受けた選手が前を向いて運び出す」と「最前線の選手がスペースに走り出したところに縦に長いボールを出してかけっこさせる」の2つ。後ろから攻め上がってくる選手のためにスペースを作るという、『連動した動き』がまったくない。運良く前目でボールを奪えてカウンターをしかける時も、攻撃陣はただ真直ぐに相手陣に走っていくだけ。“対角線”的に走ることがないから相手守備陣がマークで混乱することもない。レンタルで来てくれた水野も柴原もフィジカル面でまだまだ。少しのアタリで飛ばされてしまうし、Jの試合に慣れてないせいもまだ若いのに後半なかばにはバテてしまう。これでは相手も守りやすい。

プロのチームが1試合も消化して、チーム攻撃戦術としてはかなり基礎の部類のプレーも具現化できないというのは、いくらケガ人が多いとしてもどうしたことだろう。考えられるのは、守備陣にケガ人が多いから攻撃型選手を守備に

入れているけどあくまでそれは暫定的なモノ、ケガ人が戻ってきたら戻すからそれまではとにかくコラえてくれ……といった感じなんだろうな。だから、守備をどうにかするのが精一杯、と。チーム事情を考えれば理解できる。けど、対戦相手は岐阜のチーム事情なんか考慮しないし、おカネと時間を使って長良川に足を運んでくれるお客さんに「対価に値するモノ」を何も提示出来ないのは問題。千葉戦のシュートは3本。相手G Kが処理したシュートは後半40分の柴原の左からの一撃だけだったのではないかと。唯一の決定的チャンスは左から深く切れ込んでからのマイナスのパスを受けた樋口がダイレクトで撃たずにボールを失ったシーンだけ。何千人というお客さんは、PKを奪われて時久がスーパーセーブで防いでくれるのを観たくて長良川に来ているわけではない。今年の岐阜が唯一勝利した松本の監督が「自分たちのサッカーをすればいいだけなのに、それをしないから負けた」と例によって（苦笑）岐阜サポの心臓にサンドペーパーをかけるようなコメントを残していたけど、残念ながら現状ではそのコメントは正しい。ケガ人の多さを考慮しても、FC岐阜のサッカーは明らかに試合を重ねるごとに“退化”している。せめて、万博のガンバ戦で見せてくれたような「戦う気持ち」はカタチに出してほしい。（吉田 鑄造）

【ユース】GWの試合結果

我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は5月5日(日)にクラブユース選手権の1次予選で愛知FCと、5月6日(月・祝)には岐阜県のG1リーグの試合で中京高校との試合が有りました。このうち5日の愛知FCとの試合を観戦してきました。愛知FCは愛知県では県2部リーグに所属していますが、これまでFC岐阜ユースが出場出来ないJユースカップの全国大会に昨年クラブチームの代表として出場した強豪チームで、中西哲生、矢野隼人、斎藤大輔等数名のJリーガーを輩出しているチームです。FC岐阜ユースボールで前半KO。ゲームはFC岐阜ユースが主導権を握っていて、開始当初から相手側サイドでの攻防が続きました。そしてFC岐阜ユースのCKも何回か有りましたが、決めきれませんでした。一方の愛知FCは自陣でプレーする時間が長かったのですが、決して引き籠もっている訳ではなく、攻撃の意識はしっかり持っていたと思います。そして前半の19分、FC岐阜ユースの選手のミスしたボールを愛知FCの選手が奪い一気にカウンター攻撃となり、ゴールを決められてしまいました。その後もFC岐阜ユースが攻め込む時間が長かったのですが得点できず、FC岐阜ユース0対1愛知FCで折り返しました。後半も前半ほどでは有りませんがFC岐阜ユースが主導権を握りましたが決め切れません。逆に後半2分、愛知FCのCKからFC岐阜ユースのゴール前で混戦となり、その中で愛知FCの選手に押し込まれ0対2と点差が広がってしまいました。その後もFC岐阜ユースは相手ゴールを目指しますが焦りが出たのが精彩を欠くようになり、タイムアップ。敗戦となりました(涙)。

試合の流れを握っていたのは間違いなくFC岐阜ユースだったと思います。相手ゴールに近づけた回数やCKもはるかに多かったが、その時間帯に得点出来なかった。逆に愛知FCは劣勢の時にもFC岐阜ユースのミス拾ってしっかりゴールにまで結びつける事が出来た。そこは流石だったと思いました。

この日の他チームの結果も有り、FC岐阜ユースは最終節を残して1次リーグの3位以上は確定しました。よって5月26日に磐田市のゆめりあサッカー場で行われるチャレンジトーナメントに進む事は確定となりました(パチパチパチ)。最終節で順位が決定すればその対戦相手が決まります。そしてこのチャレンジトーナメントを突破出来れば6月の3チームによる決勝リーグに進む事が出来、決勝リーグの上位2チームが全国大会に出場する事が出来ます。尚、6日(月・祝)に関市中池で行われたG1リーグの第2節中京高校戦は0対4でこちらも敗戦となりました。この試合は未観戦ですが、中京高校は昨年のG1リーグの覇者であり、連戦である点も含めて厳しい試合になるとは思っていましたが、結果はそれ以上に厳しかったですね。今後の公式戦は「5月12日(日)のクラブユース選手権1次リーグの最終節のFC ERDE戦」と「5月26日(日)のクラブユース選手権チャレンジトーナメント」「6月1日(土)のG1リーグ第3節帝京大可児B戦」があります。連敗した事で見えた課題点をしっかり反省・対策した上で、気持ちを切り替えて今後の試合に臨んで欲しいです。頑張れよ！応援しているから！！FORZA！FC岐阜ユース！！(シュナ)

5月5日、久しぶりにFC岐阜ユースの試合を見に、愛知学院大学へ行って来ました。昔Jリーグに上がる前に、ここでトップチームが愛知学院と練習試合やったのを思い出しました。クラブユース東海大会1次予選第4節 愛知FCとの試合は前半押し気味に進めていたのですが、相手のカウンター一発で失点。後半にもCKのクリアミス拾われての失点で結局0-2で敗戦。前半に点が取れていればなぁと思わせる試合でした。嬉しかったのは、僕は選手たちのいるベンチからも、声出し組からも離れた遠いところで見えていたのですが、試合が終わった後に選手たちが挨拶に来てくれたことでした。普段からユースの子たちはスタジアムとかで会っても、きちんと挨拶をしてくれてすごく好印象を持っています。コーチの指導がしっかり行き届いている証拠ですね。機会があれば、またユースの試合にも足を運んでみようかと思いました。(若葉)

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

